



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1928, 10(5): 392-394

ISSUE DATE:

1928-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183510>

RIGHT:

はこの地の有力なノーベル會社と密接な關係を有し、大戰直後、ノーベル石油會社の油田所有權を得ることに腐心し之れ又一九〇二年之を買收した。

たゞしこの買收に先つて露國に於けるバグラー、グロスニール、エムバ及マイコフの油田に於ける大小百六十の石油會社はその所有せる石油田と之に附屬せる財産をホルシエヴィグによつて悉く沒收されてゐるのである。そこで列國がソヴィエツト政府を容易に承認しない理由も明になるのであるが、かうした變化のため一時ロシアの石油産出は激減したのである。

この問題はまだ露國と對外國との間に決着がついてゐないけれども、ソヴィエツト政府は自力で石油業を回復し徐々之を輸出するやうになつてゐる。何としても歐洲では一九二四年に六、六五三、〇〇〇バレルを産出した露西亞の如き石油國はないのであるから、石油資源に乏しい歐洲諸國の市場に近く、且その産出石油の品質優良である事からみても、世界の石油問題の上に重大な影響をもつのである。ローヤルダツチ及スタンダードの二大會社は何れもその油田の獨專に失敗したから、現今は第二の策として兩記石油會社は、ヨーロッパに於けるソヴィエト生産の石油を可成多量に購入せむことに努力して、百方秘術をつくすといふのが現状である。英米二國の石油戰の中に立つて、バグラーの石油の將來は實に刮目に値するのである。

質疑應答

問 南米に於ける石油産出の將來を伺ひたし 鳥取縣 生答 ヴェネズエラに於ける石油生産の激増は主としてラ、ローザ、ラグラニス油田といふ馬拉カイボ湖東岸の油田が發掘された結果である。礦區所有者が競争をするので、生産増加が著しく、しかもこの方面の生産能力の限界は未だ判明しないから、まだ生産するらしい。一九二七年上半年に二千七百七十萬バレル、本年は恐らく五千五百萬バレル以上にのぼると觀測されてゐる。

この國の試掘を了してゐない廣大なる地域の地質條件が良好であるから、同國石油業は前途有望で、數年を出でずしてメキシコを凌駕し、將來世界第二の石油國は、ヴェネズエラがロシアかいつれか豫想がつかぬ位である。この國のメキシコよりも好都合なのは政治的の秩序が發達してゐる點である。メキシコでは一時情熱的投機的に探掘されたために、社會が悪化し、カリビアン海一流の海港になつたタンピコは既に凋落し始めてゐる程、線香花火的であつたが、ヴェネズエラは其地表下の所有權を政府に收めた故に、凡ての探掘が政府の許與せるコンセツションを基礎とする。政府も信用があり、財政狀況もわるくないから、コンセツションから無茶に税金を取りたてゝ、メキシコのやうに石油生産税が正確に豫測できぬといふやうなへまがない。もしコンセツション相互の競

區問題を適當に解決さへすれば政治上將來の心配がないから廣大なる石油埋藏地はます／＼開發されるであらう、マライボは今日石油業の主要中心地である。同名の灣口にあつてカラカスから數日行程である。

次に南米コロンビアを見ると、その狀況はすべてヴェネズエラに類似する、今後十年間に世界石油生産上重要な地位を占むるであらう。この國が今日まで石油業の發達が遅々として進まなかつた原因はその主産地が單一のコンセツションにのみ許され競争がなかつたこと、及好望の地域が法律及技術上の困難を持つてゐたためであるが、同時に石油を海岸に輸送すべき設備が無かつたからでもある。蓋しこの國の主産地はマグダレナ盆地で二百七十五哩の上流にある、しかもマグダレナ川は年中船が通る川でない。一日三萬バーレルの油送管が一本出來た位であつて、その割合にしか採取されてゐない。並行管線が出來れば更に増産する筈である。猶この國の好望地はアンデス東山脈の東側即マライボ盆地の南端に於けるこの國の領土内に存する。もしヴェネズエラとの交渉がついて、東方へ輸送が出來るとなれば、これ又將來は刮目すべき石油地である。

第三に秘露は最近數年間に急速なる増加を示めし來たが恐らく年額千五百バーレルが最高であらう、こゝもアンデス東側に於て新油井が開發されたと考へらるゝが、このアンデス東側即コロンビアよりアルセンテンへ亘る長大な地帯が開發さるゝことは恐らく一、二世紀の後であらうか。今以

質疑應答

上の三國の一九二六年の產出油を左にかゝけて、之を他の國に比較することにする。

	バーレル	トン
ヴェネズエラ	三〇,三三六,〇〇五	三,八四一,四四〇
ペルー	一〇,七五〇,〇〇〇	一,三三〇,〇〇〇
トリニダード	四,七七一,〇〇〇	五八〇,〇〇〇
メキシコ	二五,五二五,〇〇〇	三,一四八,〇〇〇
日本	一八五〇,〇〇〇	二,二四〇,〇〇〇
東印度		

問 タフ林の繁茂時代及其の分布狀態についで

福島縣 石城郡 尾形生

答 タフといへばいぬぐす、*Machilus Thunbergii* であるが、常綠闊葉樹林中の主要な現存樹種である。分布は安房伊豆を北の境とし、南は紀州、四國、九州、琉球、臺灣、小笠原に及び支那の福州廣東あたりにも産する。楠科の植物の繁茂する現代の分布地域に共通するとみるべきである。詳しくは植物の學者に尋ねて下さい。(F)

問 日本の安山岩、流紋岩及花崗岩が正規の夫れ等の岩石と異なる點

答 之れと同主旨なる問題が此の度の檢定試験に出たさうである。日本にも勿論外國で初め命名された時に定義された安山岩、流紋岩及花崗岩が出ない譯ではない事を先づ豫め一言しておく。先づ安山岩に就いて言ふと我國には安山岩中に屢々甚しく灰長石に富む斜長石を含むものが多い。又橄欖石

の多量なるものも正規の安山岩としては不適當である。此様なことが問題になるのは日本の所謂安山岩を正規の安山岩と甚しく石灰分の多い鹽基性のものとに區別する必要がある事を暗示するもので小藤博士が *Adagite* と稱して居らるるが如き名稱が必要となるのである。此の種の岩石が富士火山帶の如き地溝或は火底の火山に多き事は研究者の一考を要する。

(勿論大いに此の點を考へて居らる學者も既にあるにはある) 筆者想ふにクランツの標本にあるハンガリーの所謂安山岩は餘程日本のものと異つて居るが、アンデス山中の安山岩は恐らく著しく日本のものと似て居るであらう。従つて或は獨乙の安山岩がアンデスの安山岩と異つて居るべき事も考慮に入れる必要があらう。因にアンデサイト(安山岩)を和名になほして富士岩と言ふ人があつたが富士山の中でも猿橋熔岩の如きは其の顯微鏡下の構造から言つても成分礦物から言つても純然たる玄武岩であるから、此の名は探らぬ。

流紋岩は斑晶をなす長石として正長石が多く斜長石の少ないものを正規とする。然るに日本の大部分の所謂流紋岩と稱せらるる岩石では斑晶に斜長石が甚だ多い。従つて其の礦物成分上は石英安山岩と稱すべきものであるが石英の斑晶が多い事、肉眼的に流狀が著しい事、分析の結果硅酸が多い事などで流紋岩と呼ばれて居る。然し硅化作用が行はれて其の分量が増えて居る場合が第三紀の同岩には甚だ多く其の點を考慮すれば大部分は石英安山岩となつて仕舞ふ。但し正規の流紋岩も日本に多少は産出する。

花崗岩も成分礦物として斜長石の極く少ない岩石を言ふのであるが日本で漫然花崗岩と稱するものは甚だ斜長石が多い色の白いものは皆斜長石の多い花崗岩で、この或るものは花崗閃綠岩であり他のものは石英閃綠岩である。然し花崗閃綠岩と稱する斜長石が正長石より多少多いものも閃綠岩に對して稱する花崗岩類に加へてもよいのであるから其の點から言へば日本の花崗岩と稱するものの半以上は鹽基性の花崗岩類には屬する。本邦に産する新鮮にして肉色の長石を有する花崗岩は大抵正規のものである。

以上通覽するに日本の火成岩は硅酸の同一パーセンテージに就いて考へると其の中に含まるる長石は概して外國のものより石灰分に富むといふ特徴が見うけられる。然し同時に少くとも日本の地質調査所で行ふ岩石分析中には外國で行ふ分析と比較して常に SiO_2 が多く出て CaO が少く計算される癖のある事を指摘しなければならぬ。それはリオルフの火山學第二卷に載せられた櫻島熔岩の日本及び獨乙で行はれたる多數の分析の例を見れば明かである。又溫泉岳の熔岩の分析に就いて京大地質教室の牛島氏が行つたものと既に駒田氏の調査報告に載せられたものとを比較しても明かである。(況太平洋學術會議編輯溫泉岳案内書及び震災豫防調査會報告第八十四號參照) 課題者は勿論斯くの如き問題を考慮に入れて居られる事と思ふが答解者の中には斯る點に氣づいて居らるる人は少ない事と思ふ。従つて本邦の上述の火成岩を特に正規の夫々の岩石と異つて居ると考へる事は多少割引して考へなければならぬ。(本間)